

[実践報告]

公開講座 椿の道アカデミー

「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」と学生による“Kids' English”の実践

小玉容子 キッド ダスティン

島根県立大学短期大学部総合文化学科

キーワード

公開講座

英語絵本の読み聞かせ

英語多読教材

キッズ・イングリッシュ

[PRACTICAL REPORT]

Camellia Road Academy Open Lecture “How to Read English Picture Books to Children: Training and Practices” and Presentation of “Kids' English” by Junior College Students

Yoko KODAMA, Dustin John KIDD

Department of Arts and Sciences, The University of Shimane Junior College

Keywords

open lecture

reading picture books to children

english graded readers

Kids' English

島根県立大学短期大学部では、図書館本館およびおはなしレストランライブラリー(本学の子ども向け絵本図書館)を会場に、公開講座 椿の道アカデミー「英語絵本の読み聞かせ」や、学生による幼児・児童向け英語講座 “Kids' English”を実施している。本報告書では、これまでの公開講座の実施内容、参加者の感想、学生による Kids' English 実践内容、今年度の予定などについて報告する。

1 公開講座 椿の道アカデミー「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」

1) 平成23年度¹⁾

公開講座「英語で読書：絵本の読み聞かせに挑戦」は、英語多読教材や英語絵本を用いた英語学習を地域の人々、特に英語初習者である中学生に体験してもらうための講座として平成23年度にスタートした。参加者募集のパンフレットの内容説明では「英語の絵本や物語を音読し、英語の音に慣れましょう。簡単な英語で書かれているストーリーから始めて、最後は絵本の読み聞かせに挑戦。楽しみながら英語の基礎力アップを目指します。」と案内した。平成23年度の日程は、8月1日(月)から5日(金)までの5日間で、1日の講座は10時から12時10分までとし、60分のサイクルで2回、計10回実施した。当初、参加対象者は中学1・2年生としたが、日程に無理があったか、またはタイトルや説明が難しく響いたためか、中学生の参加申し込みは3名だった。急きょ、問い合わせをしてくれた成人も受け入れることにした。最終的な参加者数は中学生1名、成人2名だった。

講座内容は、英語の音読と絵本の読み聞かせ実践に向けた練習である。教材は英語多読用図書の Oxford Reading Tree (ORT) と Eric Carle の絵本などを用いた。ORT は日本での多読による英語学習の第一段階として用いられることが多い教材である。イギリスの約80%以上の小学校で採用されている「国語」の教科書で、かわいい

キャラクター達が登場し、ユーモアあふれる「オチ」がある話が多い。ネイティブの子供たちが使う自然な英語で書かれ、10段階にレベル分けされている。頻繁に使う表現が繰り返し登場するため、自然な英語習得につながる教材である²⁾。

1時間ごとの内容は、①ウォームアップのための Tongue Twister 他(10分間の基礎練習で、口をしっかりと動かし、声を出すことに慣れるための練習)、②ORTシリーズの音読(20分間の音読で、1ページに1行程度(1冊およそ40~70語)のレベル2からスタート)、③CD付きのエリック・カール他の絵本の読み聞かせ練習(20分)。①から③を1日2回繰り返したが、しっかりと声を出すことを第一の目標にし、音読や読み聞かせの練習では、発音や抑揚、英語のリズムを指導しながら行なった。内容の詳細は以下のとおりである。

1日目:①‘Peter Piper’の繰り返し練習。最後に、3回繰り返しの早口言葉競争を実施。②音読は、ORTレベル2からレベル3の12冊で、語数は671語。③*Brown Bear, Brown Bear, What do you see?*の読み聞かせ練習。CDを聞き、次にリズムのとり方をCDに合わせて繰り返し練習を行なった。

2日目:①‘Humpty Dumpty’と‘Peter Piper’の練習。最後に、3回繰り返しの早口言葉競争を実施。②音読は、ORTレベル2からレベル3の18冊で、語数は1,342語。③*Brown Bear, Brown Bear, What do you see?, From Head to Toe*の読み聞かせ練習を、CDに合わせて行なった。

3日目:①‘Sally Sells Seashells by the Seashore’と‘Peter Piper’の繰り返し練習。②音読は、ORTレベル3からレベル4の12冊で、語数は1,406語。③*Draw Me a Star*のCDをじっくり聞き、ストーリーを味わった。*Draw Me a Star*と*Brown Bear, Brown Bear, What do you see?*の読み聞かせ練習を行なった。

4日目:①‘This is the House that Jack built’と‘Peter Piper’の繰り返し練習。②音読は、ORTレベル4の9冊で、語数は1,341語。③*Draw Me a Star*の読み聞かせ練習と、*The Lady With the Alligator Purse*の読みの練習。*The Lady*は、リズ

ムをとり、歌う(ように読む)練習を行なった。

5日目:①‘This is the House that Jack built’と‘Peter Piper’の繰り返し練習。②音読は、ORTレベル4の9冊で、語数は1,421語。③*Brown Bear, Brown Bear, What do you see?*と*From Head to Toe*の読み聞かせの実践練習を行なった。

多読用図書に関しては、5日間で合計60冊、6,181語をすべて音読した。すべての本を担当講師が読み、受講生も読んだので、②のセクションだけで実際には約12,300語を読んだことになる。ちなみに、中学校3年間の英語教科書の総語数はおよそ5千語程度であり³⁾、語数だけでいえば、5日間で中学教科書の2倍以上の語数を聞いて、音読したことになる。

毎日欠かさず参加してくれた中学1年生の感想は以下の通りである。一日目、「英語の本を読んで、英語の音になれる学習をして、とてもおもしろかったです。絵本も、絵を見て話すので、読みやすいし、わかりやすいです。」二日目、「音楽と一緒に音読をして楽しかったです。(ノリノリで!!)本を読むと、自然に英語に慣れるのでいいなと思いました。」三日目、「絵本の絵がおもしろい。‘Humpty Dumpty’がわからない。絵本をリズムにのせて読むのが楽しかったです。日に日に読めるようになりました。CDを聞いて、物語の世界に入り込んでしまいました。すごくおもしろかった。金曜日の本番に喜んでもらえるような読み方ができるように、がんばりたいです。」四日目、「たくさんの絵本が見れて、とても楽しかったです。Mother Gooseもだんだんできるようになりました。絵本と多読本を読みました。だんだん同じ表現が出てくると、わかるようになって、見ていてとても楽しいです。」五日目、「2回目くらいからがんばって練習してきた絵本の読み聞かせをしました。図書館の方にもお話を聞いていただいて、すごく良い経験になりました。前よりも、「人に聞いてもらうこと」を意識して読むことができました。1回目からだんだん長くなってきた多読本を5日間がんばって読みました。今までにわからなかった単語も、本を読むことで簡単に覚えることができました。小さい本だけど、文法もたくさん入っていてすごく勉

強になりました。』

成人の参加者2名のうち一人は、「英語が話せてうれしい。絵も楽しい。全く読めないと思っていましたが、読めてうれしい。絵本なので楽しい。音楽も良くて楽しいです。」と純粋に英語の音読を楽しんでくれた。また別の一人は、「動きの悪い舌がよく回るようになりました。英語もリズムですね。発音リズムの大切さがよく理解できました。昨日はリズムを重視して声を出していましたが、今日は単語を一つずつ“丁寧に”を意識しました。最初に比べて、ずいぶん単語の発音がclearになったと思います。本を読み重ねるうちに、一語一語を“はっきり”させる口・舌が自然に出来てきたように思います。単語をclearにさせる事が、文章全体をより“なめらか”に、“きれい”にさせることだと、体感して理解できたと思います。」と、毎日の継続練習による上達を楽しんでくれた。

それぞれの英語学習歴の違いもあり、感想のポイントは異なるが、皆共通して音読の有効性(楽しみ・発音改善)を体験してくれたようだ。多読教材や多読による英語学習方法を大学内にとどめず、中高大連携および地域連携等の場に広めることができたと考える。

2)平成24年度¹⁾

平成24年度の公開講座「英語絵本の音読と『読み聞かせ』に挑戦」は、成人を対象にして実施した。この講座は昨年度実施した中学生向け講座の第二弾である。内容も昨年とほぼ同じだが、多読用図書の音読時間を減らし、読み聞かせで使用する絵本の音読により多くの時間を割いた。教材も昨年度同様に、多読用図書のORTシリーズ、そしてEric Carlの絵本に加え、Stan and Jan Berenstainの絵本を数冊加えた。

日程は平成24年7月30日(月)から8月3日(金)までの5日間で、時間は学生の授業時間に合わせて2コマ目(10時40分から12時10分)に設定した。参加申し込みは21名だったが、図書館の利用スペースや読み聞かせの実践指導などを考慮し、申し込み順に12名を受け入れた。そのうち実

際の参加者は9名で、内訳は女性6名、男性3名、年齢層は58歳から79歳だった。

内容は、①ウォーミングアップとしてTongue Twister や歌(‘Peter Piper’、‘She Sells Seashells’、‘Humpty Dumpty’、‘The Itsy Bitsy Spider’)、②ORTシリーズのペア音読、そして③Eric Carl、Stan and Jan Berenstain、Dr. Seussの絵本の読み聞かせ練習と実践だった。使用した絵本は、*Draw Me a Star*、*From Head to Toe*、*Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?*、*The Berenstain Bears and the Spooky Old Tree*、*In a People’s House*、*The Lady with the Alligator Purse*である。

久しぶりに英語に触れる人たちも多かったので、手遊び歌などの体を使って表現する歌などを取り入れるとともに、繰り返しを十分行った。ORTシリーズは、レベル3とレベル4をペアでの音読練習に用いた。中心となる活動の絵本の音読では、CD付きの絵本を選び、全員でCDを聞いて読みの練習を繰り返した。最終日はおはなしレストランライブラリーで、読み聞かせの実践を行った。

参加者の感想をもとに講座の様子を紹介する。第一日目は、「久しぶりの英語で、読み方を思い出すことからです」、声を出して英語を読むことで「少しずつ恥ずかしさもぬけてきて」「とても楽しめました。声を出すっていいですね」、「このレッスン、終日まで来ます」と、少し興奮気味の感想が多かった。

二日目はORTのレベル4に挑戦したり、Berenstainの*The Berenstain Bears and the Spooky Old Tree*の読みの練習をしたりしたためか、「だんだん難しくなり、時々発音できない単語も出てきました」という、難易度が高くなったことへのコメントが多くなった。早口ことばの練習でも、「早口を覚えるのが大変です。文字を見ずに話すのは難しい」、「早口ことばがなかなか覚えられないので、家でも少しずつ慣れるようにしないと、と思いました」等のコメントがあった。しかし一方では、「二日目になると少し英語に慣れてきて」、「レベルが上がり、さらに楽しくなってきました」という感想もあり、成人対象の短期間の講座で扱う内容やレベルに関し

て、参加者の様子を見ながらの調整が必要である点を再認識させられた。

三日目は読み聞かせに用いる絵本を選ぶために、CD付きの絵本を次々に聞いたり読んだりした。「英語はリズムに慣れることが必要」で「リズムをつけて話すと意味が良く通じるように思う」というように、リズムやイントネーションに気を付けながら絵本の読み聞かせ練習ができた。

そして四日目、実践形式での読み聞かせでは、「ペース、強調する言葉、抑揚を考えて」、「互いに助け合いながら、非常に楽しく」練習ができた。五日目は、夏休み中だったこともあり、おはなしレストランライブラリーにはいつもより多くの子供たちが集まっていた。参加者全員が練習の成果を十分に出し、楽しく読み聞かせの実践ができた。

参加者の中には、長期の英語学習歴を持つ人、子供向けに英語を教えた経験のある人もいたが、一方、久しぶりに英語を聞いたり読んだりするという人たちもいた。「先生の口を見ながらまねて」何とか自分で読むことを楽しんだ人、皆で大きな声で歌うことを楽しんだ人など、各自が楽しみを見つけてくれた。参加者同士が発音などを教えあったり、読み聞かせに関しての意見を出し合ったりして協力し、その過程で互いにより良い読みをしようとする姿勢や仲間意識が育っていった。平成24年度の公開講座の収穫は、「声を出すこと」で英語を楽しみ、参加者が最終日一緒に学食で食事をする仲間に育ったことだったかもしれない。

3)平成25年度

平成25年度も、前年度同様の英語絵本の音読と「読み聞かせ」の実践講座を実施した。日程は平成25年7月29日(月)から8月2日(金)までの5日間で、時間は10時40分から12時10分とした。参加申し込みは15名だったが、実際の参加者は11名で、全員が女性だった。平成25年度は募集対象を「中学生以上となたでも」としたが、申し込みは成人のみだった。このような講座を中学生などに広げるためには、やはり各学校や教育委員会などとの協力が必要なのだろう。

参加者は全員が新しいメンバーだったので、内容は平成24年度とほぼ同じにした。平成25年度の参加者の感想を紹介し、講座内容および受講生の様子の説明としたい。一日目は、「久しぶりに人前で英語を話した」、「久しぶりに英語で声を出した」、「何十年ぶりに英語を聞きました」、「久しぶりに声を出して英語を言ってみると口がまわっていない」など、英語に触れること自体が久しぶりだという人たちがほとんどだった。この講座をきっかけに、英語に再挑戦してもらえたことは喜ばしいことである。初日は雰囲気づくりが大切なので、とにかく声を出してもらうことにしている。「気後れしましたが、声を出して読んでいくうちに楽しくなってきました」、「とても楽しかった」、「人前で、というのはドキドキでした」など、参加者は様々な思いを抱きつつ、「あつという間」に90分が過ぎていった。

二日目は、「昨日のおさらいをしながら進むので、繰り返し練習ができて安心です」、「新しい絵本を紹介してもらったり、昨日の絵本でまた練習したりしてよかったです」などの感想にもあるように、復習や繰り返し練習を十分行った。

三日目は、「手遊び歌はとても面白く、とんとんやってみたくなりました」、「手遊び歌で、童心にかえり楽しみました」と、皆が手遊び歌の練習を楽しんだ。「少しずつ表現を覚えられて嬉しいです」、「今日はかなり口を動かしたような気がします。滑舌が良くなったようです」、「少し英語らしい口元の動きができるようになりました」、「口が、少しですが、まわるようになって嬉しいです」、「何やら少し聞き取れるようになったかしら!!」など、三日目にして早くも参加者の多くが自身の変化を感じたようだった。

四日目は、「読み聞かせ」実践に向けて練習を繰り返した。「読み聞かせの経験がないので、明日は不安」、「見せて読む、という技術はやってみて大変だと思いました」、「うまくできなくてあたりまえ…でも今晚はねむれるかなあ」と実践を翌日に控え緊張感が少し高まった練習になった。

五日目は図書館本館で練習をしてから、場所をおはなしレストランライブラリーに移し読み聞かせ

を行った。「とても緊張してドキドキでしたが、教えていただいたようにゆっくり、意味の塊で切って読むことで読みやすくなり、あまりあがらずにできました」、「人前でするのは緊張しましたが、いい経験でした。楽しかったです」、「楽しく読み聞かせをすることができました」と、緊張しながらも楽しい読み聞かせ実践を体験してもらうことができた。「仲間を支えられ何とか子供たちに読んであげることができました」、「受講されたメンバーの方々も素敵な方ばかりでとても良い時間を過ごすことができました」というように、今年度も参加者同士の仲間意識が育った講座となった。

平成26年度は、7月28日(月)から8月1日(金)の五日間で実施の予定である。すでに13名の受講生が決定している。今年度もこれまでと同様に読み聞かせの実践を目指した英語音読講座にする予定だが、担当者にダスティン キッド講師が加わり、よりきめ細かい指導が可能になった。本講座の目的を改めて整理すると、一つは、担当者が授業担当している「キッズ・イングリッシュ」や多読教材を用いた「多読演習」などの短期大学での教育を地域に開放することである。もう一つは、図書館本館に揃えた「英語絵本教材」や「多読図書」などを地域の人々に活用してもらい、図書館利用の促進に貢献することである。講座終了後も図書館が生涯学習を支援する場として利用され続けることに繋がっていくことを願っている。

2 学生による「幼児・児童向け英語講座 Kids' English」 —英語絵本の読み聞かせを中心に

1) 平成14年度からの“Kids' English”の実践

平成14年は小学校で「総合的な学習の時間」を利用した英語活動が本格的に取り入れられた年である。本学でも平成14年度から、学生による幼児・児童向け英語講座を実施している。初年度は、2年生の卒業研究として幼児・児童向け英語教育理論の研究や教材作成などを行ない、年6回の“Kids' English”講座を実施した。近隣保

育園や幼稚園に案内し、週末に講座を実施した。本学大学祭でも“Kids' English”を企画し、大勢の幼児・児童と保護者の参加があった。平成15年度以降も、平成18年度を除き、大学祭の企画を中心に「Let's Enjoy English—親子で英語を楽しもう」の公開講座などを実施した⁴⁾。

2) 平成19年度「キッズ・イングリッシュ」のカリキュラムへの導入

平成19年度の3県立大学の統合に伴うカリキュラム改革を機に「キッズ・イングリッシュ」をカリキュラムに導入し、平成20年度から23年度までは本学講師クリス ラングと共同で担当した。平成20年度には、小学校での英語教育経験が豊富な開星中学校・高校教諭(当時)のダスティン キッド氏が「キッズ・イングリッシュ&ストーリーテリング」の授業や大学祭企画にゲスト講師として参加し、短期大学での「幼児・児童英語教育実践」に貢献してくれた。

平日の公開講座は幼児・児童に参加してもらうことが難しいため、平成21・22年度は松江市立乃木小学校の「朝の読書」活動時間に参加させてもらったり、英語活動に参加させてもらったりした⁵⁾。平成23年度からは、学内にオープンした「おはなしレストランライブラリー」で、週末に「English Story Time: 英語絵本の読み聞かせ」を開催している。地域連携の活動報告書の平成23年度版を以下に再録する。

平成23年度の「キッズイングリッシュ&ストーリーテリング」(総合文化学科2年前期)受講生13名は、おはなしレストランライブラリーで「英語絵本の読み聞かせ」を行った。9月から10月にかけて、土曜日11時から30分の読み聞かせと英語アクティビティを5週間実施した。学生たちは既に短大の授業で学んだ幼児・児童向けの英語教育内容と方法を実践することができた。また、今回の活動は、学生たちの英語実践力向上に役立ったとともに、ライブラリーの読み聞かせ活動にも貢献できたと考える。

平成24年度以降は、この英語絵本の読み聞

かせ活動を6月後半から9月にかけての土・日曜日に実施している。平成26年度は、小玉、キッドの2名で授業を担当し、学生の指導やライブラリーでの実践活動を実施している。地域の人達の利用が活発である「おはなしレストランライブラリー」での実践は、学生たちのコミュニケーション能力の

育成や英語力を高めるための貴重な場となっている。また、Kids' English 講座の提供は、地域の人達の英語に対する意識の高まりに応える活動でもある。今後もより一層充実した活動に育てていき、地域貢献活動の一つとして継続実施をしていく予定である。

注

- 1) 平成23年度と24年度の公開講座における活動内容に関しては、次の本学紀要で発表した論文で詳細に述べている。竹森徹士、小玉容子、ラング クリス「多読教育の発展的試み」、『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』、第50号、2012、pp. 9-18。竹森徹士、小玉容子、ラング クリス「多読教育の発展的試み2」、『島根県立大学短期大学部松江キャンパス研究紀要』、第51号、2013、pp. 33-43。
- 2) Oxford University Press のホームページを参照。<http://www.oupjapan.co.jp/gradedreaders/ort/> (最

終アクセス日:平成26年6月13日)

- 3) 酒井邦秀、『さよなら英文法!多読が育てる英語力』、ちくま学芸文庫、2008、p. 202。
- 4) 平成14年度から平成16年度までの実践内容に関しては、以下の論文参照。小玉容子「幼児・児童向け英語教育の教材研究と実践:短期大学生とともに」、『島根女子短期大学紀要』、第43号、2005、pp. 39-49。
- 5) 乃木小学校での英語活動参加に関しては、本学総合文化学科情報誌『のんびり雲』第3号(2009) 72頁73頁で紹介している。

受付:平成26年6月20日 受理:平成26年8月1日